

平成25年度徳島県教育行政点検・評価委員会  
議事概要

(開催要領)

- 1 開催日時 平成25年8月27日(木) 午前10時から午前11時30分
- 2 場 所 県庁9階 教育委員室
- 3 出席者

【委員】 5名中4名出席

椎野 正敬 委員	徳島県高等学校PTA連合会会長	
高畑富士子 委員	AWAおんなあきんど塾会員	
中川 朋子 委員	JICA四国 国際協力推進員	
中村 昌宏 委員	徳島文理大学総合政策学部長	会長

【県】 佐野教育長、小原副教育長、富樫教育次長、藤井教育次長他

(会議次第)

- 1 開 会
- 2 教育長あいさつ
- 3 委員及び事務局職員紹介
- 4 議 事
  - (1) 教育委員会の点検・評価(案)の説明
  - (2) 質疑及び意見交換
- 5 閉会

【配付資料】

- 資料1 教育に関する事務の管理及び執行状況の点検及び評価の実施方針について
- 資料2 教育委員会の点検・評価(案)
- 資料3 取組目標の達成状況(平成24年度分)
- 資料4 「徳島県教育振興計画」点検・評価総括「徳島県教育振興計画第2期概要版」

(委員意見と取組の方向性)

【社会全体で取り組む教育の実現】についての意見

(高畑委員)

- ① 学校や教育委員会の枠を越えたところでの家庭や地域の意識、そこでの教育力の低下が感じられるが難しい問題。
- ② 女性従業員が多くかつ土日休めない業種であるが、企業内保育の認可を取るハードルは高い。一方、仕事と子育てが分離してしまった社会。家に子どもを置いて勤めに出る母が罪悪感を持って働く社会に対し、企業ぐるみで子どもを育てるという視点も必要と実感している。

(中村会長)

- ③ 子育て支援については国の政策的な予算の付け方により目標値にも影響があるように思われる。政策的な影響による目標の修正も必要と思われる。
- ④ シニアを含む異年齢の人とのふれあいは、子どもたちの情緒のみならずリーダーシップや規範意識を育む機会としても大切と考える。



〈取組の方向性〉

① 【第2期教育振興計画】

「学校・家庭・地域の連携」「家庭の教育力の向上」「学校の応援団づくり」を重要施策に位置付けており、「家庭教育に関する学習機会提供」をはじめ「学校・家庭・地域連携支援スペシャリスト」養成や「学校サポーターズクラブ」を全市町村に展開し、地域の教育力向上を推進していくこととしている。

② 【部局間連携対応】

「子は親の背中を見て育つ」ということから、企業ぐるみの子育て支援はキャリア教育に資する取組とも考えられる。保健福祉部や商工労働部とも連携して子育て支援を考えていく。

- ③ 文科省所管「放課後子ども教室」をはじめ厚労省所管「放課後児童クラブ」など各地域の実情やニーズに応じた放課後対策を推進していく。

④ 【今後の取組】

福祉施設と学校や社会教育施設が一体となって相互交流を通じて各々の機能を高める新しい学校形態「パッケージスクール」の構想を検討する。

## 【確かな学力の育成】についての意見

(高畑委員)

- ① 本県児童生徒の国語力の弱さ、自ら考え判断し表現したり応用する力の弱さ、それが将来の規範意識、親が子どもに伝える言葉の力の弱さ、地域住民が子どもに関わっていけないコミュニケーション力の弱さに繋がっていくという危惧を感じる。
- ② 会社に入ってからコミュニケーションを育む教育をしなければならないことがある。国語力の強化、コミュニケーション力の強化が課題と経営者として感じている。



〈取組の方向性〉

### 【第2期教育振興計画】

- ・ 「読書習慣の確立」「書く力を伸ばす指導の実施率」「コミュニケーションを図る取組推進」を重要施策に位置付け、「阿波っ子 学びのススメ10か条」を活用した「自ら考え、判断し、表現できる子ども」の育成に向けた教育活動を推進。
- ・ H24年度から「読書の生活化プロジェクトⅢ」読書活動を推進し、学校による家庭読書につながる取組の充実を推進。
- ・ 子どもたちが「言葉を学び、感性を磨き、表現力を高め、創造力を豊かなものにし、人生をより深く生きていく力」を育むとともに、すべての教科等においてコミュニケーションの基盤となる言葉を使った活動を充実させる各校の取組（間違いを恐れずに発言できる環境づくり、自分の意見を発表したり話し合ったりする機会の設定、様々な考えを引き出したり思考を深めたりする発問や指導の充実など）を促進していく。

## 【健やかな体の育成】についての意見

(中川委員)

本県児童生徒の体力向上を考えると、子どもだけでなく親にも体力について考えてもらうことが大切と考える。



〈取組の方向性〉

### ・【第2期教育振興計画】

- 「保護者が子どもと一緒に運動することを通して、子どもの体力や健康への意識を高め」ていくことを今後の取組として位置付けている。
- ・【子どもの体力向上アクションプラン】H23.3月策定  
「学校行事(参観日、家庭訪問、保護者面談)等の機会を通して、保護者に望ましい運動・生活習慣形成の重要性」について理解と協力を求める取組を促すとともに、休日に行われるスポーツ情報や昔あそび、ニュースポーツなど手軽に親子で体験できるイベントを実施し、運動に親しむ機会の提供を図っている。

## 【いじめ対策】についての意見

(椎野委員)

- ① 「携帯電話での誹謗中傷」であるが会話だけでなく書き込みもある。

(中村会長)

- ② LINEは数名の仲間が情報共有しそれ以外を排除しており問題になってくるのではと危惧している。

(椎野委員)

- ③ 「不登校」と「いじめ」の関連性はどうか。「目に見えないいじめ」そういった所にも目を向けていただきたい。

(中川委員)

- ④ 「もし世界が100人の村だったら」というワークショップを実施したことがある。これは国際理解がテーマであるが少数民族の気持ちをプレッシャーなく体験できる。「いじめ」問題についてもこのような体験学習があればと思う。



### 〈取組の方向性〉

#### ①②【第2期教育振興計画】

「ネット上のいじめについていつでも相談できる体制の充実」「児童生徒や学校・家庭・地域を含めた情報モラルの向上」を今後の取組に掲げ、インターネットや携帯電話を介してのいじめ問題解決に向けた「教育相談体制の充実」を推進。

#### ③【第2期教育振興計画】

- ・ 「心の居場所となる楽しい学校づくり・いじめを許さない学校づくり」を推進。
- ・ H23年度に学識経験者や保護者等で構成する「健全な成長をめざす生徒指導の在り方検討委員会」を設置し、不登校・いじめに係る生徒指導上の諸課題の具体的に有効な解決に向けた対策を立案し取り組んでいる。
- ・ 24時間電話相談対応など児童生徒や保護者が相談しやすい環境を整備。

#### ○【児童生徒の心のサポート体制づくり推進事業】

- ・ 臨床心理士を目指す大学院生をライフサポーターとして不登校児童生徒の家庭に派遣。
- ・ スクールカウンセラーを中学校単位に配置し、全公立学校への派遣体制を構築しているとともに、困難事例に対しては、医師、大学教授、社会福祉士等によるスクールプロフェッサーを派遣。

#### ○【今後の取組】

- ・ いじめと不登校の関連、教員の目に見えない部分「分かりにくいな」「隠しているんだな」という認識のもと、芽を拾っていく地道な活動を継続してゼロに近づけていく。

- ④ 生活の様々な場面で活用ができる教材「心のノート」を活用し、命の大切さ、他人を思いやる心を身に付ける道徳教育の充実を図っている。

## 【キャリア教育】についての意見

(椎野委員)

- ① 小学校、中学校、高校でキャリア教育はある程度分けた取組が必要でないか。

(高畑委員)

- ② 小学生の会社見学、大学生のインターンシップを受け入れている。小学生から手書きの礼状、大学生からの就職したいという言葉は企業人として非常に嬉しい。是非継続していただきたい。受け入れについて協力、連携していきたい。

(中村会長)

- ③ 今夏休みに48箇所61名の大学生を派遣。温かく受け入れてくれており、受け入れ側の理解は想像以上に進んでいる。

- ④ インターンシップを経験した学生は一回りも二回りも成長したなど感じる。時間を守る、働く姿に感動する、アルバイトとは違う教育ができています。

(中川委員)

- ⑤ 「内向き志向」という課題があることから体験を重ねることは良く、早い学年からのキャリア教育がよいと思う。



〈取組の方向性〉

### ①【現在の取組】

- ・ 小・中・高の発達段階に応じた内容を示した「キャリア教育の手引き」を作成し、小中高通じた組織的・系統的なキャリア教育の推進に取り組んでいる。
- ・ 専門高校の生徒が、小・中学校の児童生徒に出前授業等を行うことにより、高校生の専門性向上はもとより、児童生徒の勤労観・職業観の育成を図っている。

### ②③【今後の取組】

- ・ 「キャリア教育推進協議会」を設置し、学校と家庭・地域、産業界が連携して、企業等による教育活動支援を促進する。
- ・ 高校で指定校を設け、就職希望の2年生を選考して長期、組織的に取り組み、ミスマッチが起こらないような、生徒にとってはその企業を深く知り、企業にとっては社員としてやっていけるかどうかを長期に見ていただく取組を検討中。

### ④⑤【第2期教育振興計画】

- ・ 異年齢者との交流や地域における様々な職業人と身近に接する機会が少なくなった児童生徒に、多くの人々と関わる機会を積極的に設ける。
- ・ 発達段階に応じた組織的・系統的なキャリア教育を実施するとともに、体験的な活動を充実させることにより、児童生徒の社会的・職業的自立のために必要な能力や態度を育成する。
- ・ 専門高校においては、長期間のインターンシップを設けるとともに、普通科高校においても積極的にインターンシップを実施する。

## 【競技スポーツの振興】についての意見

(中村会長)

本県人口が47都道府県中44位であることを考えれば、40位でもよく頑張っているという評価があっても良いのでは。



〈参考・H24年度全国高校総体入賞種目について上記意見を踏まえ考察〉

H24年度県立高校では、剣道女子・登山男女・ボクシング・ウェイトリフティングが入賞しているが、各種目毎の全国での出場校数及び部員数と本県の状況は次のとおり。

(全国高等学校体育連盟 HP 全国高校総体大会活動実績から)

種目	順位	本県校数	部員数	全国校数	全国部員数	本県部員数割合
剣道・女子	5位	9校	72人	3,037校	16,486人	0.4%
登山・男子	5位	8校	51人	822校	7,505人	0.7%
登山・女子	5位	8校	33人	378校	1,812人	1.8%
ボクシング	5位	4校	17人	348校	2,691人	0.6%
ウェイトリフティング	5位	5校	20人	218校	1,801人	1.1%

- ・ 本県剣道女子の部員数は全国ワースト2(校数はワースト1)である中で入賞。
- ・ 本県各競技部員数は全国対比1%前後という低さの中で入賞を果たしている。

## 【国際理解等】についての意見

(中川委員)

他者を思いやる豊かな心、互いに認めることは、異文化理解、国際理解教育に繋がるし、文化遺産の発掘と継承は、伝統文化と深く関わる部分で国際交流を進めていく上で重要であり、双方の連携した取組を望む。



〈取組の方向性〉

H25年度新規事業「NIPPON・探究スクール事業」において、明治から昭和における歴史を紐解き、各時代における「世界の中の日本」「日本の中の徳島」を探究し、日本人としてのアイデンティティの確立を図り、同時に自分自身と我が国社会との繋がりを意識させ、「公共」について考える生徒の育成に取り組んでいる。

## 【点検評価委員会会長・総評】

- 湯川博士曰く「昨日より歩みを前進した今日でありたい」。ゴールは常に一步先に置き、歩みを進めていく。本県の教育、step by stepで着実に成果を上げていることを実感した。引き続き「教育で優れた徳島県」というものを確立するために頑張っていたいただきたいという思いでいっぱいになった。